



407/Mu R11922

科学の殿堂・ベル研究所の、若きカリスマ、ヘンドリック・シェーン。彼は超電導の分野でノーベル賞に最も近いといわれた。

しかし2002年、論文捏造が発覚。『サイエンス』『ネイチャー』等の科学誌をはじめ、なぜ彼の不正に気がつかなかったのか？

欧米での現地取材、当事者のスクープ証言等によって、現代の科学界の構造に迫る。

西島学長推薦！



408/B/1535 R06900

誠実で「真理の探究者」と尊敬されている科学者による不正行為が後を絶たない。なぜ、彼らは自らの名誉と職を失いかねないリスクを冒してまでも不正行為に手を染めるのか？

ガリレオ、ニュートンなど大科学者から詐欺師まがいの研究者まで豊富な事例を通じて、科学の本質に迫る問題作。



407/I R06851

世界中を大騒動に巻き込んだ韓国人生物学者・黄禹錫教授の論文データ捏造問題。

ノーベル賞確実と言われた国民的英雄は、なぜ陥穽にはまったのか。実証的にその経緯を明らかにしていく。

科学読み物としてはもちろん、人間ドラマとしても興味深い。一級のドキュメント。



407/Su R12097

はじめは、生命科学の権威、笹井氏からの一通のメールだった。

ノーベル賞を受賞したiPS細胞を超える発見と喧伝する理研の記者会見に登壇したのは、若き女性科学者、小保方晴子。発見の興奮とフィーバーに酔っていた取材班に、疑問がひとつまたひとつ増えていく。

「科学史に残るスキャンダルになる」STAP細胞報道をリードし続けた毎日新聞科学環境部。その中心となった女性科学記者が、書き下ろす。



407/Ka R12027

米国科学アカデミーが(NAS)が新人研究者に向けて、「科学者とはどうあらねばならないか」「研究をするときには何に注意しなければならないか」などといった科学者としての基本的な心構え、義務、モラルなどをコンパクトにまとめた指針書の最新改訂版。

科学者をめざす若者だけでなく、若者を指導する立場に立つ指導者も、ぜひとも持っておきたい1冊。

実際に遭遇しそうな場面を問題形式で取り上げたケーススタディや、過去の実事例を紹介したコラムなども充実し、科学倫理のテキストとしても最適である。**毛利教授推薦!**



407/I R08003

最近では科学・科学者の旗色がとみに悪いように見える。問題が山積である。

「本書は、科学をめざしている若者、ジレンマに悩む若い科学者、そして科学研究の内実を知りたいと思っている人、を念頭において書いたものである。科学者のあるべき姿を追求しつつ、科学の今を見つめ直し、科学の未来を考えるための素材を提供したいと考えたのだ」

—現場より発せられた、岐路にある若い科学者たちへの最高の手引。

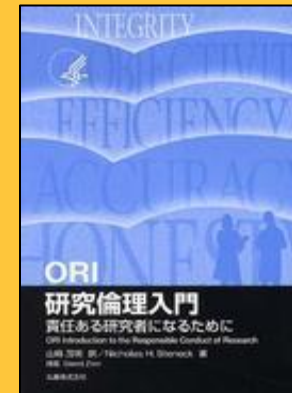


407/Ka R07948

次つぎと明るみにでる、論文捏造や研究費の流用。いま、科学者の倫理が問われている！

本書は、日本の研究事情に即した科学倫理の格好の手びき書。理的な問題に直面したとき、どう判断し行動すればよいのか—最近の事例や身近なQ&Aをまじえて、わかりやすく指針をしめす。

科学者をめざす学生が、ふと疑問を感じたときに手にとって欲しい一冊。



407/S R04612

米国の科学研究の不正行為防止専門機関ORI(研究公正局)がまとめた科学研究の倫理教育テキスト。

様々な法的文書、規律やガイドラインに触れ、計画、実行、報告、審査という研究の通常の流れに従って解説する。具体的な事例を提示し、身近な問題として考えながら責任ある科学研究や研究の公正さについて学べるように工夫されている。



407/Ka R12447

本書では、人文・社会科学から自然科学までの全分野の科学者が、「どのようにして科学研究を進め、科学者コミュニティや社会に対して成果を発信していくのか」を命題に、研究を進めるにあたって知っておかなければならないことや、倫理綱領、行動規範、成果の発表方法、研究費の適切な使用等、科学者にとって必要な心得について、エッセンスを整理し、まとめている。



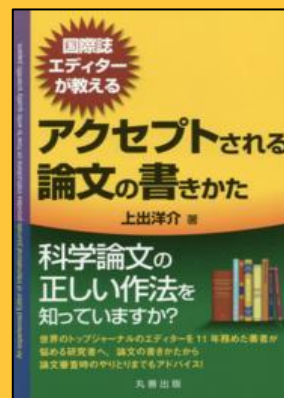
404/Sa R12347

ノーベル賞をはじめとする輝かしい成果と、研究不正などの頭の痛い諸問題—。現代科学は、真理を追究する純粋な学問であると同時に、競争、出世、生活、金、権力といった生臭い要素がからみ合う、きわめて「人間的な」営みでもある。個人としての研究者、集団としての研究組織、それを取り巻く社会という三つの視点から、光と影をあわせ持つ生々しい現実を浮き彫りにする。



816.5/Ya R11923

多くの大学で盗作問題、とくにコピー&ペースト操作で継ぎはぎされたレポートの問題が、学期末の風物詩になっている。「コピペ」をやめさせ自分の力でレポートを完成するようにさせる教育は全大学必須と言えるだろう。しかし電話帳のような分厚い家電の取扱説明書を読む人が少ないように、細かな文章作法まで伝えるマニュアルは分厚すぎて使いづらいものだ。大学新入生がやる気を失わずに書き始められるためには、まず最低限のポイント、「コピペ」と引用の区別を知り、調べたことを引用・要約しつつ自分の意見を述べる方法に絞ったマニュアルが必要ではないだろうか。初めて読む教科書としてプレゼミにも最適な一冊。



407/Ka R11852

どうして研究者は論文を書かなければいけないのか？よい論文とは？ねつ造や改ざんなど、論文の不正とは？レフェリーとのやりとりのポイントや、自分がレフェリーになったときの心構えも解説します。世界のトップジャーナルのエディターを11年務めた著者が悩める研究者へ、論文の書きかたから論文審査時のやりとりまでもアドバイス！